



赤滝沢 (作図: i)

赤滝沢右俣

一九七六年七月三十一日

◆天気(晴)

仕事を年前中に終え車で赤滝沢出合まで入る。赤滝沢の水は少々酸味はあるが飲めないことはない。すぐに砂防ダム。人工の建造物が七個次々にあらわれる。右岸に、左岸にと若干のヤブをこいで次々に越えていく。最後の

砂防ダムを越えるとすぐ二俣。登山道が横切っている。右俣の方が本流らしいのでそれに入る。

小さなナメを越えると、F1—○は三段の滝である。やっと沢を登っているという感じになる。左岸を直登して越えると小さなナメがいくつも出てくる。右岸上方には大きな岩場。やがて二俣となり左へ入る。すぐ滝だ。F3、F4と連続してかかっている。左岸を直登してゆが、ホールドは豊富なもののボロボロの岩場だ。F4は左岸のブッシュ帯ぎりぎりを直登。続くF5も直登し

F6はハング状の滝のため右岸を捲く。倒木が多くなる。小さなゴルジュを越え小滝を越えると、右岸から小沢が合流し、一五〇程の美しい滝をかけている。F9で左岸を捲くと、沢にはコケが多くなりヤブがcaぶさるようになる。もう源流部だ。ミズバショウの群落がいくつかあらわれたあたりで右にヤブをこぐと堀田林道に飛び出した。

(記・△)

(タイム)

出合一三・三〇―二俣一四・〇〇―沢終了一五・五〇
―堀田林道一六・〇五

赤滝沢左俣

一九七八年七月二十八日
初

◆天気(晴)

赤滝沢左俣は流量も少なく距離も短いので、たいした滝もあるまいとたかをくくって入谷したところ、思いがけず三〇〇程の大滝に出くわし、小さな沢の割には意外なよさを発見した。

九時二俣を出発。赤滝沢左俣も流れ込む枝沢も水は酸



赤滝沢右俣の廻行

性が強くて飲用にならない。沢床には鉄分の多い赤い岩がゴロゴロしている。五〇程のナメ滝を越えてしばらくゆくと三つの連続する滝にぶつかった。下の二つは小さく簡単に越せるが、一番上のはたつぷり三〇〇程の落差のある二段の滝だ。左岸ブッシュの中を高捲きすることになった。この上流にはもう大きな滝はないが、小さなナメと小滝が続いて、小さな沢の割には結構楽しい。やがて左に涸れ沢を分ける。もう水流も極めてとぼしくなる。簡単な昼食の後、カモシカの足跡のいっばいいたがレ場を登りきると高倉新道に飛び出した。